

地域ブランド商品開発プロジェクトについて

○山岸 大輔^{*1}, 三須 幸一郎^{*1}, 清水 克彦^{*2}, 児玉基一郎^{*3}
 〔 鳥取大学 産学・地域連携推進機構 知的財産管理運用部門^{*1},
 同 地域連携・生涯学習部門^{*2}, 大学院連合農学研究科^{*3} 〕

1. はじめに

近年、全国において地域のイメージや地域資源などを活用した地域ブランド商品の開発が盛んに行われている。国や自治体においても、地域のブランド化に関しては地域団体商標制度の改正や地域資源の認定など、地域経済の活性化に向けた種々の取組みが行われている。鳥取大学においても、地域資源における食品に対する機能性の評価など、地域ブランド商品の開発に関わる共同研究は多い。今回、そのような取組みの中で、新たな地域資源の創出を目指したマネジメント手法を開発することを目的として、新たなアプローチでブランド商品の開発を試みる地域コミュニティの協力を得て、地域ブランド商品開発プロジェクトを設立した。本発表では、当該取組みの概要とこれまでの成果を紹介する。

2. 取組み概要

鳥取県鳥取市では、平成 20 年に鳥取市地域ブランド創出・活用方針が策定され、市民が地域資源を再認識し、鳥取市に誇りと愛着を持ち、住みたい街を目指す等の政策、支援等を行っている。また、ここ近年の経済雇用状況の変化を踏まえた鳥取市の経済・産業政策の方向性を市民・企業・経済団体等に示し連携して進める必要があるため、平成 26 年 3 月に「第 3 次鳥取市経済再生・雇用創造戦略」を策定されている。本戦略は、一つの柱として、「地域資源活用による産業創出」を掲げ、鳥取市の自然・文化・歴史などの魅力ある資源を活用した産業を振興し、農林水産物や観光分野など人・ものの流れを活発化させながら産業を振興する目標を打ち立てている。以上のように、地域の特性を生かした商品開発や地域ブランドの創出等の活動を通じて、地域産業の活性化を図る取組みが実施されている。本プロジェクトでは、このような地域ブランド創出活動に関して、地域の状況に適したマネジメント手法を検討し、鳥取市をモデルとした地域志向型知的財産マネジメントの確立を目標としている。具体的には、鳥取市鹿野町の地域コミュニティと連携し、地域ブランド商品の開発、知的財産の保護、他地域との比較等を通じて地域志向型知的財産マネジメントにおける成功要因に対する評価基準等について検討することを計画している。プロジェクトにおける実際の商品開発に対して、学生の参加を計画しており、大学生が発案・開発に関与したという商品の販売についても検討を進めている。

3. これまでの成果

鳥取市鹿野町は、鳥取市の西側に位置する城下町であり、歴史上の人物、温泉、植物（ハス等）、農作物又は町並みなど様々な地域資源が存在し、観光の拠点としてブランド化が図られている。今回、鹿野町で活動する地域コミュニティ「あかり本願衆」と連携して事業を企画し、実行している。これまでに、ブランド商品開発プロジェクトのキックオフミーティング、商品開発における計画および学生への参加依頼を実施している。当該事業説明および地域資源を利用した食品開発に対する意見交換などを通じて、現在約 10 数名の学生の参加があった。引き続き、町の史跡等（地域資源）のツアーを実施し、地域ブランド商品の開発と、新たな地域資源の創出に向けた事業を行う予定である。



ハスの写真（地域資源）



キックオフミーティング

【謝辞】

本研究は、平成 26 年度 COC 事業「地域志向教育研究経費」の交付を受けて行われている。本事業にご協力いただいている鳥取市鹿野町「あかり本願衆」の皆様には深く感謝いたします。